

令和6年取扱貨物量の概況

令和6年の取扱貨物量	
輸出	28万 150 トン (対前年比 93.5%)
輸入	328万 8,429 トン (対前年比 102.3%)
移出	27万 4,958 トン (対前年比 101.7%)
移入	157万 4,517 トン (対前年比 86.0%)
合計	541万 8,054 トン (対前年比 96.5%)



令和6年の石狩湾新港の取扱貨物量は、全体として前年を若干下回る5,418,054トンとなりました。主な動向として、輸出では、金属くずのベトナム向けが増加したものの、韓国向けが減少して188,008トン(対前年比92.5%)となったほか、自動車部品の韓国向けが増加したものの、マレーシア向けが減少して9,551トン(86.2%)となるなど、全体では前年を下回りました。なお、前年、中国の輸入禁止措置により取扱が大きく減少した水産品については、その輸出先が中国からタイやベトナムなどの東南アジアへシフトした結果、20,812トン(対前年比117.5%)と増加しました。

また、輸入では、オーストラリアやオマーンなどからのLNGが2,693,364トン(対前年比107.1%)となったほか、韓国からの灯油が293,446トン(対前年比104.3%)となったことに加え、製造食品は過去最高となるなど、全体では前年を上回りました。

そして、移出では、主に北海道内への灯油が104,415トン(対前年比114.4%)と増加するなど、全体では前年を上回り、移入では、主に北海道内からの砂利・砂が451,736トン(対前年比89.3%)と減少するなど、全体では前年を下回りました。

令和6年外国貿易額

令和6年の外国貿易額	
輸出額	253億 1,963万円 (対前年比 81.8%)
輸入額	1,975億 8,218万円 (対前年比 94.4%)
合計	2,229億 181万円 (対前年比 92.8%)

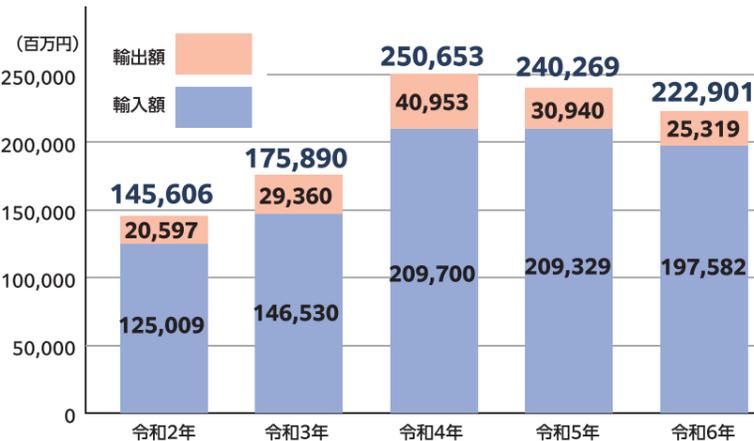
石狩湾新港の令和6年外国貿易額は、小樽税関支署石狩出張所によると、輸出額が253億1,963万円、輸入額が1,975億8,218万円、総額2,229億181万円となりました。

輸出額では、主要品目である「魚介類及び同調製品」が73億2,194万円(対前年比81.2%)と減少した一方、「パルプ及び古紙」が7億8,861万円(対前年比111.6%)と増加しましたが、全体では前年に比べ減額となりました。

輸入額では、「再輸入品」が19億3,120万円(対前年比13.7%)、「電気機器」が20億4,364万円(対前年比15.8%)と大きく減少した一方、「肉類及び同調製品」が142億4,878万円(対前年比120.2%)と増加しましたが、全体では前年に比べ減額となりました。なお、3年ぶりに2千億円を割り込みましたが、過去3番を記録しました。

出典:函館税関貿易統計資料

石狩湾新港外国貿易額5年間の推移 ※令和6年は速報値



MARINE PRESS

ISHIKARI BAY NEW PORT NORTHERN PORT DAZZLING THE WORLD FROM ISHIKARI

石狩湾新港管理組合
石狩湾新港外貨物利用促進協議会
北海道石狩市新港南2丁目725-1
Tel 0133-64-6661 Fax 0133-64-6666
http://www.ishikari-bay-newport.jp

外貿コンテナ取扱個数 2年連続増加

令和6年外貿コンテナ取扱個数

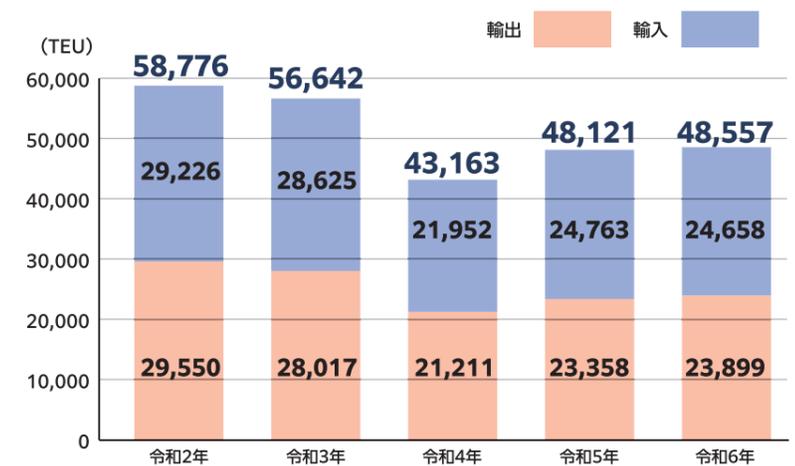
区分	令和6年の外貿コンテナ取扱個数		
	合計	輸出	輸入
実入りコンテナ	31,775 (対前年比 100.1%)	8,182 (対前年比 95.6%)	23,593 (対前年比 101.8%)
空コンテナ	16,782 (対前年比 102.5%)	15,717 (対前年比 106.2%)	1,065 (対前年比 67.4%)
取扱個数(TEU)	48,557 (対前年比 100.9%)	23,899 (対前年比 102.3%)	24,658 (対前年比 99.6%)

石狩湾新港の令和6年の外貿コンテナ取扱個数は、輸出が23,899TEU、輸入が24,658-TEU、合計で48,557TEUとなりました。

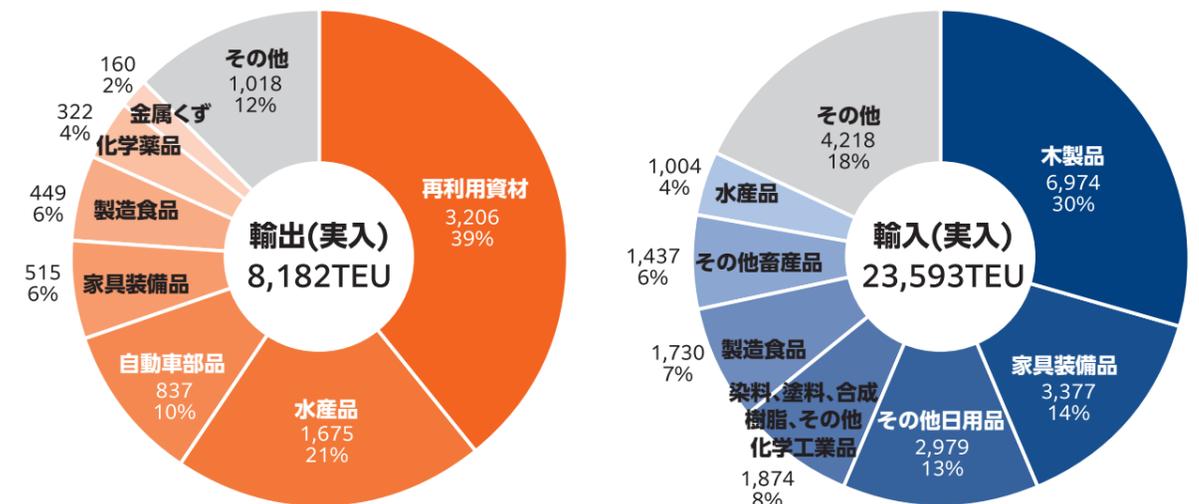
主な動向として、輸出では、再利用資材が3,206TEU(対前年比101.4%)と増加したものの、自動車部品が837TEU(対前年比88.7%)と減少するなど、全体としては前年を下回りました。

また、輸入では、木製品が6,974TEU(対前年比113.6%)と増加したほか、家具装備品が3,377TEU(110.0%)となるなど、全体としては前年を上回り、外貿コンテナ取扱個数の総数は2年連続で増加となりました。

外貿コンテナ取扱個数5年間の推移 ※令和6年は速報値



令和6年外貿コンテナ貨物品目構成 速報値(単位:TEU)



厳しい環境でも安定の荷役を実現! 石狩湾新港は冬でも物流を止めません

降雪量が多いことで知られる日本海側の中においても、臨海部まで雪が積もる地域は少ないですが、その積もる地域の一つが石狩湾新港です。時折、首都圏、関西圏の荷主企業様から冬期間の荷役が安定して行われるか等、ご心配の声をいただくことがあります。本港は積雪の影響によりコンテナヤードをクローズしたことは過去に一度もありません。本記事では冬期間における安定した荷役作業に向けた取組をご紹介します。

本港周辺では、一日で最大30cmもの雪が降ることがあり、10月から翌4月までの降雪日数は100日を超える国内有数の豪雪地帯に位置しています。そのため、物流を止めないスムーズな荷役を支えるような様々な取組を行っています。

除雪体制については、翌日に降雪が予報される場合、臨港道路や岸壁は深夜から、コンテナヤード内は、朝7時前から除雪作業を開始し、8時30分のゲートオープン前に完了させます。他港では、海水をくみ上げて融雪を行う事例もありますが、本港では氷点下が続くことから海水を撒くと路面が凍結するため除雪車を使用し、また、コンテナの際などは手作業により除雪を行うなど、降雪に強いヤード運営を実現しています。



▲物流に支障がないよう臨港道路は万全の除雪体制

加えて、港湾荷役機械も寒冷地仕様のものを採用しており、ガントリークレーンはレールにヒーターを備え、雪が積もっても支障なく稼働できるほか、リーチスタッカーはスプレッターの爪を長尺化し、雪が積もったコンテナ上部でも確実に固定できるようにするなど、様々な対策を講じることで、年間を通して安定した荷役を実現しています。

こうした取組により、本港は降雪の影響で、コンテナヤードがクローズしないよう、冬期間でも万全の除雪体制を維持し、安定した荷役作業を実現しております。



▲寒冷地に対応した港湾荷役機械を導入

TOPICS!!

石狩湾新港外貿貨物利用促進協議会・ 石狩湾新港リサイクルポート推進協議会講演会を開催しました

令和6年12月、石狩湾新港外貿貨物利用促進協議会と石狩湾新港リサイクルポート推進協議会は、札幌市内のホテルで講演会を開催し、両協議会の会員をはじめ70名以上が参加しました。

講師の(一社)寒地港湾空港技術研究センター審議役の遠藤仁彦様は、前職の国土交通省北陸地方整備局長であった際に発生した能登半島地震の経験から、災害時における港湾の役割についての事例紹介や、日本海側に位置する石狩湾新港が今後さらに発展するためには、札幌圏のエネルギー供給拠点、リサイクル拠点としての強みを更に活かすとともに、コンテナ航路の拡充が重要であると述べられました。

続いて、本講演会では、石狩湾新港開港30周年記念事業実施報告および特別講演を同時開催し、講演では旭山動物園統括園長の坂東元様にご登壇いただきました。閉園の危機にあった旭山動物園を、年間100万人以上が訪れる全国的な人気施設に再生した事業改革の取組や、動物園に関わる物流の事例紹介などを講演いただきました。



▲講師の遠藤審議役



▲講師の坂東統括園長

石狩湾新港から札幌のアクセスがより便利に バイパス道路が新設

石狩湾新港と札幌方面を繋ぐ新たなバイパス道路が令和7年度に開通する予定です。これにより、輸送ルートが多重化され、交通分散による渋滞の緩和や物流の効率化につながり、石狩湾新港から札幌市中心部までのアクセス向上が期待されます。

本港は、札幌市中心部まで直線距離で約15km、車で30分という近距離に位置しており、札幌圏の物流を担う事業者の方々にとって利便性の高い港湾となっています。

近年、石狩湾新港地域では、(株)ニトリホールディングス様の物流部門を担うホームロジスティクス(株)様やイオン北海道(株)様などの大型物流センターをはじめ、様々な企業進出が進み、この10年間では、新たに約90社が増加し、現在では680社以上が操業しています。このことに伴い、物流関連の交通量や通勤車両も、地域内の就業人口とともに増加しました。特に朝夕の通勤時間帯には渋滞が発生し、物流の定時制の確保に影響を及ぼしていました。

こうした状況を受け、石狩市では地域内企業等からの強い要望もあったことから、新たな道路の整備を北海道に要請し、工事が着手されました。このバイパス道路の開通により、札幌方面との短絡ルートが形成されることから、港へのアクセス時間が短縮されます。そのため、物流面においては配送スケジュールの最適化に寄与するとともに、燃料費の低減や、CO2排出量の削減にもつながります。

港湾管理者としては、この道路の開通が、本港の利用拡大、さらには石狩湾新港地域の発展に寄与するものと期待しています。



©OpenStreetMap Contributors

海を進む食品加工場 新造船「関鯨丸」が石狩湾新港に初入港

令和6年12月に共同船舶(株)様が保有する捕鯨母船の関鯨丸と捕鯨船の勇新丸が本港に初入港しました。世界で唯一の捕鯨母船が、半世紀ぶりにナガスクジラの生肉を荷揚げする様子は、各種メディアで広く取り上げられ、大きな注目を集めました。

令和6年3月に完成したばかりの関鯨丸は、勇新丸が捕獲した鯨を船内に引きあげ、船内で加工を行う母船式捕鯨を採用しています。関鯨丸の船内には70t級のナガスクジラにも対応した広い加工場が設けられ、屋内で衛生的に鯨を解体することが可能です。解体された鯨はカット作業からケースへの詰込、急速冷凍、保管までをコンベヤで搬送しており、まるで、食品加工場のように省人化されています。また、冷凍保管には40基搭載された20ftリーファーコンテナを使用し、必要な量や部位ごとに効率的にストックしています。さらにコンテナの搬出時には船体のランプウェイから直接トレーラーが乗り入れることができる船形となっており、また、船内では世界初となるコンテナ用天井クレーンも設置されています。このように鯨の解体から加工、保管、荷揚げまで一貫して行える設備を整えた機能性に優れた世界で唯一の捕鯨母船です。

このたびの関鯨丸の入港は西埠頭を利用いただきましたが、本港は多様な利用に対応できる5つの埠頭を備えていますので、今後とも様々な船舶にご利用いただけるよう取り組んで参ります。



▲本港に入港した関鯨丸。全長112.6m、全幅21m、総トン数9,299トン



▲関鯨丸の船内。床がまな板のようになっており、常に清潔な状態で解体することが可能。(写真:共同船舶(株)様提供)